

〔(公)病害虫防除試験（農林水産部食料安全室所管）〕

未解明病害虫防除技術の検討

～キクイムシ類によるマンゴー被害の発生～

近藤 健・河野 章・菊池 豊*・竹内浩二*²

(小笠原亜熱帯農業センター・*営農研修所・*²農林総合研究センター生産環境科)

【要 約】2008年、父島、母島においてマンゴーの枝および果実を加害するキクイムシ類の発生がみられた。これらはサクキクイムシ(枝を加害)、およびサクセスキクイムシ(枝、果実を加害)である。

【目 的】

2008年6月、母島のマンゴー生産者から直径1mmほどの糸状の木屑が多数出ているマンゴーの枝が営農研修所に持ち込まれ、この枝の内部からキクイムシ類と思われる甲虫が採集された。また、同年8月、営農研修所試験圃場においてもマンゴーの枝に同様の症状がみられ、キクイムシ類が発生していることが確認された。一方、父島においても同年8月、マンゴー生産者から、果実に1mm程度の穴を開けて果肉に侵入したキクイムシ類が亜熱帯農業センター持ち込まれた。また、亜熱帯農業センター試験圃場で試験栽培中のマンゴーからも枝に侵入したキクイムシ類が採集された。これらのキクイムシ類の同定を行い、小笠原のマンゴー害虫対策に役立てることを目的とする。

【方 法】

父島、母島のマンゴーを加害したキクイムシ類を同定するとともに、加害状況の調査を行う。

【成果の概要】

- 1) キクイムシ類によってマンゴーの枝が食害されると、枝から直径1mm程度の糸状の木屑が多数噴出される(図1)。また、収穫期の果実が加害される事例もみられた(図2)。
- 2) これらのキクイムシ類をサクキクイムシ(母島、枝を加害)、およびサクセスキクイムシ(父島、枝・果実を加害)と同定した(図3, 4, 表1)。両種ともナシなどの果樹において食入被害が知られているが、サクセスキクイムシによるマンゴー果実への加害は、現在までに他の報告事例はない。
- 3) 亜熱帯農業センター鉄骨ハウス内に植栽したマンゴー26本のうち2本にキクイムシ類の被害が見られた。また、マンゴー生産者圃場での発生も比較的軽微であり、果実への加害は1例のみであった。
- 4) まとめ：サクキクイムシ、サクセスキクイムシのマンゴーでの発生を確認した。これらのキクイムシ類は小笠原諸島に分布することは知られていたが、マンゴーを加害する事例は確認されていなかった。2008年、父島、母島の複数の地点でキクイムシ類によるマンゴー被害がみられたことから、今後の被害拡大に注意する必要がある。

現状ではキクイムシ類を防除する登録農薬は無いため、生産者への防除指導として、①加害枝を侵入部位まで切除し、切り口には保護剤を塗布して枯れ込みを防ぐ。②剪定枝はすみやかに圃場外に運び出し、圃場衛生に努める。③樹勢が衰えると被害を受けやすいため果過多に注意し、樹勢維持に努める、などの対策が考えられる。



図1 キクイムシ類によるマンゴー枝の被害
(2008年, 父島, 亜熱帯農業センター試験圃場)

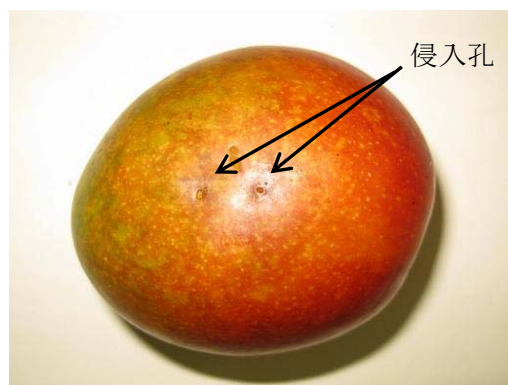


図2 サクセスキクイムシが侵入したマンゴー果実
(2008年, 父島, マンゴー生産農家圃場)



図3 サクキクイムシ成虫
(図中のバーは1mmを示す)



図4 サクセスキクイムシ成虫

表1 小笠原のマンゴーから採集されたキクイムシ類

学名	体長 (mm)	特徴
サクキクイムシ <i>Xylosandrus crasiusculus</i> (MOTSCHULSKY)	2.4-2.7	上翅斜面部に顆粒と剛毛があり, やや光沢を欠く
サクセスキクイムシ <i>Xyleborus sobrinus</i> EICHHIFF	1.9-2.7	やや細長い, 光沢をもつ, 茶褐色~黒褐色